

特集 / ウラジオストク(ロシア)



ウラジオストクは「極東のサンフランシスコ」の異名をとる坂の街。金角湾を望む景観はこの街のみどころのひとつです

2時間半で行けるヨーロッパ 相次ぐ直行便就航に熱い期待

日本航空（JL）や全日空（NH）の相次ぐ直行便就航で、にわかに脚光を浴び始めているウラジオストク。日本からわずか2時間半の「一番近いヨーロッパ」は街歩き、食、パレエといった芸術文化など、様々なポテンシャルを秘めています。今回はこのウラジオストクの魅力を探ってみましょう。

〈おこたわり〉ウラジオストクに関する取材・執筆は2020年2月上旬までに行われたものです。JATAではウラジオストクは、市場性の高いデスティネーションであるとして、今回記載することといたしました。ただし、現在新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ウラジオストク線についてJLは4月30日まで運休、NHは4月24日まで運休など、各社ともに大きな変更が発生しています。JL、NHの運航状況については各社ホームページなどでご確認ください。

JLやNH就航 ホワイトスポット開拓を

旧ソ連の軍港であったため、1991年まで一般のロシア人にも閉ざされていた極東のウラジオストク。その街に2020年からJLとNHが相次いで成田／ウラジオストク便を就航しました。JLが3月28日まで週3便、29日からはデイリー運航、NHも3月28日まで週2便、29日からは週3便の運航と、夏期はこの両社で週10便。さらにロシアの航空会社S7も同年夏期は成田／ウラジオストク週5便（JLとの共同運航）に加え、羽田／ウラジオストク線のデイリー運航を開始。エアフロートロシア航空（SU）も成田発でデイリー運航を行うなど、東京発だけで約30便となっています。



NHマーケティング室
観光アクション部長の藤嶋良一氏



JL国際旅客販売推進部企画業務
グループ長の畝川直之氏



ロシア旅行社営業部長の
添田恵美子氏

この便数増加の契機のひとつには2016年の日露首脳会談での「相互の交流人口40万人を目指す」合意によるもので、日本旅行業協会（JATA）もこれを受け「一番近いヨーロッパ」としてPRを開始しました。そうした状況を受けての今回の路線開設に、JL国際旅客販売推進部企画業務グループ長の畝川直之氏は「ウラジオストクは



美しい街並みのアルバート大通り



アルサーニエ博物館。建物は明治時代建造の旧横浜正金銀行



ウラジオストク鉄道駅



本場のバレエ鑑賞も

いわゆるホワイトスポット。手付かずのデステイネーションを開発していくチャレンジを通し、日露関係向上に寄与できれば」と語り、またNHマーケティング室観光アクシヨン部長の藤崎良一氏も「ウラジオストクへは約2時間半。未知数ではあるが双方向交流も望めるのではないかと話しています。こうしたなか、JATAでは今年2月、3月にウラジオストクをはじめ、イルクーツク、ウランウデなど極東の街々を視察する研修旅行を実施。海外旅行推進部副部長の保坂明彦氏は「2016年からの取り組みや、航空便就航で日本人客が目に見えて増加し、ウラジオストクをはじめ現地観光局も非常に前向き。手応えを感じている」と語っています。今後は商品造成支援として、会員の旅

行会社がパンフレット用写真を自由にダウンロードできるサイトを構築する考えです。
街並みや美食、コスメも将来的には極東のハブに
ではウラジオストクの街を見てみましょう。「規模はコンパクトで、博物館や展望台、 Gum百貨店、街歩きなど、2泊3日で十分楽しめる。治安も普通に良い」とロシア旅行社営業部長の添田恵美子氏。スヴェトランスカヤ大通りなどメインストリート一帯は「近いヨーロッパ」の風景を湛えながらも、市中に立つ丸屋根の正教会が「ヨーロッパ」とは一味違った魅力を醸します。明治時代の日本との関係を伝える建物も残る一方、韓流ドラマのロケ地となったアドミラーフォーキーナ通りには洒落た

カフェやレストランが並び「若い女性たちでにぎわい、写真映える」(畝川氏)。食事はロシア料理や世界各国の料理、シーフードなど多彩で「質は高く、日本人向け」と太鼓判。物価も安く、「今人気のシベリア産オーガニックコスメも安く手に入る」(添田氏)。郊外には大型ショッピングモールもあり、「帰国前に立ち寄るといった利用もできるのでは」(畝川氏)。沿海州マリインスキー劇場はロシアの歴史あるマリインスキーバレエ団の、いわば極東支部で、ロシアならではの芸術文化体験も可能です。
とはいえ急激な航空便増加でホテル不足や、現地のインフラに関する課題も上がっています。街中はほとんどロシア語。ウラジオストク空港から市内への公共路線は非常に少なく、「個人旅行客はタクシー利用となる。電子ビザも個人で取れるが、記載ミスによるトラブルも少なくない。最低でもホテル・送迎付きのスケルトン商品が



ロシア正教会 ポクロフスキー聖堂



ロシア風水餃子「ペリメニ」

現実的」と添田氏。そうした意味ではウラジオストクは旅行会社の手が必要なデステイネーションでもあります。
将来的には極東のハブとしてハバロフスクやイルクーツク周遊の可能性もあり、「アイスマラソンや食のフェアといったイベント、バレエ鑑賞を通してリピーターを育て、コンスタントに送客する工夫を」と関係者一帯は語っています。

※なお3月末現在、旅行会社に向けてJL畝川氏は「今回の災禍が落ち着き、復便した際には皆様に再度ご協力いただき、ともにウラジオストク市場を盛りあげていきたい」、NH藤崎氏も「皆様とともに今回の危機を乗り越え、観光需要復活に向け取り組んでいきたい」と語っています。